



2020年7月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年3月16日

上場会社名 株式会社ブシロード 上場取引所 東
 コード番号 7803 URL https://bushiroad.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 橋本 義賢
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理本部長 (氏名) 村岡 敏行 TEL 03 (4500) 4350
 四半期報告書提出予定日 2020年3月16日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無（新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から開催中止。代表取締役による
 四半期決算説明の動画配信を予定）

(百万円未満切捨て)

1. 2020年7月期第2四半期の連結業績（2019年8月1日～2020年1月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年7月期第2四半期	17,429	-	2,233	-	2,260	-	1,278	-
2019年7月期第2四半期	-	-	-	-	-	-	-	-

(注) 包括利益 2020年7月期第2四半期 1,525百万円 (-%) 2019年7月期第2四半期 -百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年7月期第2四半期	79.79	75.00
2019年7月期第2四半期	-	-

(注) 当社は、2019年7月期第2四半期については、四半期連結財務諸表を作成していないため、2019年7月期第2四半期の数値及び対前年同四半期増減率並びに2020年7月期第2四半期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年7月期第2四半期	28,074	14,079	47.6
2019年7月期	24,136	11,905	46.9

(参考) 自己資本 2020年7月期第2四半期 13,365百万円 2019年7月期 11,308百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年7月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2020年7月期	-	0.00	-	-	-
2020年7月期（予想）	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年7月期の連結業績予想（2019年8月1日～2020年7月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	36,000	11.9	3,100	1.4	3,100	2.3	1,800	0.0	112.18

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 -社（社名）-、除外 -社（社名）-

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年7月期2Q	16,138,400株	2019年7月期	15,706,000株
② 期末自己株式数	2020年7月期2Q	-株	2019年7月期	-株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年7月期2Q	16,020,363株	2019年7月期2Q	-株

(注) 当社は、2019年7月期第2四半期については、四半期連結財務諸表を作成していないため、2019年7月期第2四半期の期中平均株式数を記載しておりません。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

（四半期決算説明内容の入手方法）

2020年3月18日（水）15時30分以降、当社ウェブサイトにて動画配信する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) キャッシュ・フローの状況	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、消費増税の影響による個人消費の落ち込みや自動車や機械などの輸出低迷などによりマイナス成長に沈みました。また、国外においても米中の通商問題を巡る動向や不安定な海外情勢の影響に加え、新型コロナウイルス感染症の流行によって景気の先行きはますます不透明な状況が続きました。

このような環境の中、当社グループは「IPディベロッパー」戦略のもと、自社と他社の有力IPをバランスよく活用しビジネスを展開してまいりました。また、当社の特長であるワンストップ型メディアミックスモデルをさらに堅固な体制にすべく、アニメーション制作会社2社との資本業務提携や「劇団飛行船」の子会社化、広告代理店事業への一層の注力を見据えた「ブシロードムーブ」の始動等を発表いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高17,429,354千円、営業利益2,233,067千円、経常利益2,260,088千円、親会社株主に帰属する四半期純利益1,278,301千円となりました。

各セグメントの経営成績は次のとおりであります。なお、セグメント売上高につきましては、外部顧客への売上高を記載しております。

また、第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項「セグメント情報」に記載のとおりであります。

1. デジタルIP事業

当第2四半期連結累計期間におけるデジタルIP事業のうち、TCG（トレーディングカードゲーム）部門は、低年齢層向けTCG「パディファイト」（自社IP）の軟調推移が続く一方、自社他社を問わず様々な有力IPを取り入れて展開するプラットフォーム型TCG「ヴァイスシュヴァルツ」は好調に推移いたしました。

MOG（モバイルオンラインゲーム）部門においては、9月リリースの「ラブライブ！スクールアイドルフェスティバル ALL STARS」（他社IP）がこの第2四半期にフルに寄与したことに加え、12月には「ヴァンガードZERO」（自社IP）をリリース、また、配信権・運営サービスが当社へ移管された「新テニスの王子様 RisingBeat」（他社IP）や11月に2度目のApp Storeトップセールスランキング1位を達成した「バンドリ！ ガールズバンドパーティ！」（自社IP）など既存タイトルも順調に推移いたしました。

MD（マーチャンダイジング）部門においては、当社音楽部門にて開催いたしました「バンドリ！」の音楽ライブ「Rausch und/and Craziiness」における会場物販や通販などライブ関連グッズが大きく伸長したほか、一般流通における「鬼滅の刃」（他社IP）グッズ等の好調推移やオリジナルカップセルトイブランド「TAMA-KYU」が好評を博しました。

これらの結果、売上高12,204,996千円、セグメント利益1,262,863千円となりました。

2. ライブIP事業

当第2四半期連結累計期間におけるライブIP事業のうち、音楽部門は前述の音楽ライブ「Rausch und/and Craziiness」において会場とライブ・ビューイングをあわせて2日間で58,584人を動員し「バンドリ！」関連史上最大規模のライブとなったほか、音楽ソフト展開においてもオリコン週間シングルランキング1位を獲得した「イニシャル/夢を撃ち抜く瞬間に！」を含む1月リリースの「バンドリ！」関連CD3タイトルは出荷枚数15万枚を突破し、新規IPである「D4DJ」（自社IP）初のシングルCD「Dig Delight！」もオリコン週間シングルランキング9位を獲得するなど好調に推移いたしました。

スポーツ部門においては、新日本プロレスにて1月に開催いたしました初の東京ドーム2連戦興行は2日間で70,071人を動員し大成功を収めました。また、11月にリリースされましたスマートフォン向けアプリ「新日コレクション」の積み上げによりコンテンツ売上高も伸長いたしました。また、12月に事業を譲受けました女子プロレス団体「スターダム」は、IPとしてさらなる成長を遂げるべく“目指せ！新日本プロレス超え”を掲げ、全所属選手個別のSNS開設や、レギュラーTV番組のスタートなどプロモーション展開を進めた結果、超満員の会場が相次ぐなど順調な滑り出しを見せました。

これらの結果、売上高5,224,358千円、セグメント利益953,309千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は28,074,801千円となり、前連結会計年度末に比べ3,938,058千円増加致しました。これは主に現金及び預金が3,028,610千円、投資有価証券が970,707千円それぞれ増加したことによるものです。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は13,995,131千円となり、前連結会計年度末に比べ1,764,234千円増加致しました。これは主に買掛金が958,148千円減少した一方、長期借入金が1,839,632千円増加したことによるものです。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は14,079,669千円となり、前連結会計年度末に比べ2,173,823千円増加致しました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が1,278,301千円増加したことによるもの、当社普通株式の東京証券取引所マザーズへの上場に伴い、当社普通株式367,400株のオーバーアロットメントによる売出しを行ったことにより資本金及び資本準備金がそれぞれ319,417千円ずつ増加したこと及び新株予約権（ストックオプション）の行使により、資本金及び資本準備金がそれぞれ4,875千円増加したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末と比べて2,873,802千円増加し、15,440,384千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、721,679千円となりました。主な収入要因は、税金等調整前四半期純利益2,267,617千円であり、主な支出要因は、仕入債務の減少額959,716千円、法人税等の支払額566,822千円でありま

す。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、927,249千円となりました。主な支出要因は、投資有価証券の取得による支出

684,834千円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、3,075,006千円となりました。主な収入要因は、長期借入れによる収入3,450,000千円、当社普通株式の東京証券取引所マザーズへの上場に伴い、当社普通株式367,400株のオーバーアロットメントによる売出しを行ったこと及び新株予約権（ストックオプション）の行使による株式の発行による収入648,585千円であります。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年7月期の通期の予想数値につきましては、当社は、新型コロナウイルス感染症の影響により当社主催イベントを中止・延期、また、(株)新日本プロレスリングにおいては2020年3月21日までの各大会を中止することといたしました。当該影響額については現在算定中のため、連結業績予想には反映しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,850,981	16,879,591
売掛金	4,510,627	4,418,631
商品及び製品	880,159	791,555
仕掛品	774,235	932,870
貯蔵品	88,975	89,309
その他	1,646,973	1,794,795
貸倒引当金	△27,780	△27,284
流動資産合計	21,724,171	24,879,469
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	192,895	193,108
工具、器具及び備品(純額)	75,102	77,454
車両運搬具(純額)	77,839	61,326
土地	197,981	197,981
リース資産(純額)	22,183	21,348
有形固定資産合計	566,002	551,219
無形固定資産		
ソフトウェア	84,386	140,512
ソフトウェア仮勘定	50,786	66,436
のれん	2,000	5,894
その他	50,936	51,723
無形固定資産合計	188,109	264,566
投資その他の資産		
投資有価証券	471,678	1,442,385
長期貸付金	435,000	254,237
繰延税金資産	330,212	266,775
その他	408,866	406,270
貸倒引当金	△17,656	△17,631
投資その他の資産合計	1,628,101	2,352,038
固定資産合計	2,382,213	3,167,823
繰延資産		
株式交付費	30,358	27,508
繰延資産合計	30,358	27,508
資産合計	24,136,743	28,074,801

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年1月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,277,326	3,319,178
未払金	1,556,997	1,782,639
未払法人税等	567,810	859,122
1年内返済予定の長期借入金	1,490,201	2,082,087
賞与引当金	95,072	99,416
その他	798,940	563,413
流動負債合計	8,786,349	8,705,858
固定負債		
長期借入金	3,341,775	5,181,407
役員退職慰労引当金	28,120	29,338
退職給付に係る負債	43,628	46,435
その他	31,023	32,092
固定負債合計	3,444,546	5,289,273
負債合計	12,230,896	13,995,131
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,755,555	3,079,848
資本剰余金	2,692,326	3,016,618
利益剰余金	5,791,504	7,069,806
株主資本合計	11,239,387	13,166,273
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,333	126,019
為替換算調整勘定	68,215	73,234
その他の包括利益累計額合計	69,549	199,254
非支配株主持分	596,909	714,141
純資産合計	11,905,846	14,079,669
負債純資産合計	24,136,743	28,074,801

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年8月1日 至 2020年1月31日)
売上高	17,429,354
売上原価	9,282,501
売上総利益	8,146,853
販売費及び一般管理費	5,913,786
営業利益	2,233,067
営業外収益	
受取利息及び配当金	19,573
持分法による投資利益	5,204
為替差益	13,965
その他	5,396
営業外収益合計	44,140
営業外費用	
支払利息	11,122
株式交付費償却	5,996
その他	1
営業外費用合計	17,120
経常利益	2,260,088
特別利益	
受取保険金	33,817
特別利益合計	33,817
特別損失	
災害による損失	26,288
特別損失合計	26,288
税金等調整前四半期純利益	2,267,617
法人税等	872,084
四半期純利益	1,395,533
非支配株主に帰属する四半期純利益	117,231
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,278,301

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年8月1日 至 2020年1月31日)
四半期純利益	1,395,533
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	124,685
為替換算調整勘定	5,019
その他の包括利益合計	129,705
四半期包括利益	1,525,238
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	1,408,006
非支配株主に係る四半期包括利益	117,231

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

当第2四半期連結累計期間
(自 2019年8月1日
至 2020年1月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	2,267,617
減価償却費	106,347
のれん償却額	1,168
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△520
賞与引当金の増減額(△は減少)	4,281
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	2,807
受取利息及び受取配当金	△19,573
支払利息	11,122
持分法による投資損益(△は益)	△5,204
災害による損失	26,288
受取保険金	△33,817
売上債権の増減額(△は増加)	95,172
たな卸資産の増減額(△は増加)	△68,184
仕入債務の増減額(△は減少)	△959,716
その他	△155,001
小計	1,272,786
利息及び配当金の受取額	19,389
利息の支払額	△11,203
災害による損失の支払額	△26,288
保険金の受取額	33,817
法人税等の支払額	△566,822
営業活動によるキャッシュ・フロー	721,679
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△1,028,412
定期預金の払戻による収入	879,295
固定資産の取得による支出	△162,978
投資有価証券の取得による支出	△684,834
投資有価証券の売却による収入	100,000
貸付けによる支出	△20,187
貸付金の回収による収入	950
その他	△11,081
投資活動によるキャッシュ・フロー	△927,249
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入れによる収入	3,450,000
長期借入金の返済による支出	△1,018,482
株式の発行による収入	648,585
その他	△5,096
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,075,006
現金及び現金同等物に係る換算差額	4,365
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	2,873,802
現金及び現金同等物の期首残高	12,566,581
現金及び現金同等物の四半期末残高	15,440,384

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社普通株式の東京証券取引所マザーズへの上場に伴い、当社普通株式367,400株のオーバーアロットメントによる売出しを行ったことにより資本金及び資本準備金がそれぞれ319,417千円ずつ増加、及び新株予約権（ストックオプション）の行使により資本金及び資本準備金がそれぞれ4,875千円増加したことにより、当第2四半期連結会計期間末において資本金が3,079,848千円、資本剰余金が3,016,618千円となっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間（自 2019年8月1日 至 2020年1月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額（注）1	四半期連結損益 計算書計上額 （注）2
	デジタル IP事業	ライブIP事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	12,204,996	5,224,358	17,429,354	—	17,429,354
セグメント間の内部売上高又は 振替高	176,970	199,239	376,210	△376,210	—
計	12,381,966	5,423,598	17,805,564	△376,210	17,429,354
セグメント利益	1,262,863	953,309	2,216,173	16,894	2,233,067

(注) 1. セグメント利益の調整額16,894千円は、たな卸資産の調整額であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、今後の事業展開を踏まえ合理的な区分の検討を行った結果、報告セグメントの変更をすることといたしました。

連結子会社である㈱ブシロードミュージックは、従来「エンターテインメント事業」に含めておりましたが、ライブエンターテインメント事業の強化を踏まえ、第1四半期連結会計期間より、従来の「スポーツ事業」と統合し「ライブIP事業」として区分表示いたします。

また、音楽部門を除いた「エンターテインメント事業」を「デジタルIP事業」へセグメント名を変更いたします。

その結果「デジタルIP事業」は「アニメ・ゲーム」を中心に展開するTCG部門、MOG部門、MD部門及びメディア部門から、「ライブIP事業」は音楽ライブ等の事業を担う音楽&舞台部門及びスポーツ興行等の事業を担うスポーツ部門から構成されることとなります。

（重要な後発事象）

（取得による企業結合）

当社は、2020年1月27日開催の取締役会において、(株)ソプラティコの株式を追加取得する事を決議し、2020年2月3日付で同社株式を取得し、連結子会社化いたしました。

また、同時に(株)ソプラティコが全株式を保有する(株)劇団飛行船を同様に連結子会社化しております。

(1) 企業結合の概要

①被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称	(株)ソプラティコ	
事業の内容	(株)ソプラティコ	フィットネスクラブ事業
	(株)劇団飛行船	マスクプレイの企画・制作・公演事業等

②企業結合を行った主な理由

当社IPを活用した新たな舞台を共同で企画する等、今後、(株)劇団飛行船の事業は当社グループの重要な機能の一部となると判断し、シナジーを加速させるべく子会社化することといたしました。

また、(株)ソプラティコが営んでいるフィットネスクラブ事業において、当社グループ事業であるアニメ・ゲーム・音楽・プロレス・格闘技などを掛け合わせた業態やスタジオプログラムを開発し、B2B、B2Cにサービス提供して行くことで、当社グループのライブIP事業のサービスを拡充することができると考えております。

③企業結合日

2020年2月3日

④企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

⑤結合後企業の名称

変更はありません。

⑥取得した議決権比率

取得直前に所有していた議決権比率 14.5%

企業結合日に追加取得した議決権比率 85.5%

取得後の議決権比率 100%

⑦取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したためであります。

(2) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

企業結合直前に保有していた普通株式の企業結合日における時価	29,792千円
追加取得した普通株式の対価（注）	175,670千円
取得原価	205,462千円

（注）取得の対価には、条件付取得対価を含めておりません。条件付取得対価は、被取得企業が系属中の訴訟の解決に応じて支払いを行う契約となっております。取得対価の追加支払が発生した場合、取得時に支払ったものとみなして取得原価を修正し、のれんの金額及びのれんの償却額を修正することとしております。

(3) 主要な取得関連費用の内容及び金額

株式の追加取得に伴うアドバイザー費用等 45,978千円

(4) 被取得企業の取得原価と取得するに至った取引ごとの取得原価の合計額との差額

段階取得に係る差損が3,557千円発生する見込みとなっております。

(5) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

現時点において取得原価の配分が完了していないことから確定しておりません。

(6) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

現時点では確定しておりません。

(多額な資金の借入)

当社は、2020年3月12日開催の取締役会において、資金の借入について決議しました。これは、当社グループの24ヵ月分相当(約240億円)の経常運転資金を確保し財務的基盤のより一層の安定を図り、より機動的に企業活動をするため、本件借入を実行するものです。

(1)借入先	(株)みずほ銀行、(株)三井住友銀行、(株)三菱UFJ銀行、(株)りそな銀行、(株)北陸銀行、三井住友信託銀行(株)、(株)商工組合中央金庫
(2)借入金額	8,050,000千円
(3)借入金利	固定金利
(4)借入実行日	2020年3月
(5)返済方法	元金均等返済
(6)最終返済期日	借入実行日より3～5年間
(7)担保等の有無	無担保・無保証

(自己株式の取得)

当社は、2020年3月16日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式取得に係る事項を次のとおり決議いたしました。

(1) 自己株式の取得を行う理由

株主還元の一環として、また、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能にするため、自己株式の取得を実施いたします。

(2) 自己株式の取得に係る事項の内容

- ①取得対象株式の種類 : 当社普通株式
- ②取得する株式の総数 : 100万株(上限)
(発行済株式総数に対する割合 6.18%)
- ③株式の取得価額の総額 : 20億円(上限)
- ④取得する期間 : 2020年3月17日から2020年10月23日まで
- ⑤取得の方法 : 東京証券取引所における市場買付